

相馬市立中村第一中学校だより



# 螢雪の功

令和7年3月21日発行  
文責 高瀬 永志

## 夢の実現と幸せを祈念

13日第78回卒業証書授与式を挙行し、134名の卒業生が学び舎をあとに旅立ちました。当日は暖かい春の日になり、コロナ禍に入學してきた卒業生にとって、制限なく、保護者や来賓をお招きした盛大な式ができて大変うれしく思います。卒業生、在校生がそれぞれに、厳粛に、思いを込めて式を進められ、卒業証書の呼名の返事、送辞、答辞どれも素晴らしいものでした。みんなで声を合わせる最後となった式歌は、参加者全員の心に感動をもたらしました。卒業生の頬をつたった涙は、3年間努力したからであり、大切な仲間と友情を育んだからであると思います。その姿を見た1、2年生たちが先輩達の思いを引継ぎ、中村一中をさらに発展させてくれることを期待します。



答辞 荒木優花さん



送辞 佐藤陽馬さん

### 式辞の一部を紹介します

これから皆さんには、青春という長い旅路を歩み始めます。

そこには、夢を追いかけ夢中で努力する日々、何でも話せる友達と笑い合う時間、新しいことに挑戦するわくわく感、心が弾むような体験など、キラキラとした瞬間が、きっと訪れるはずです。しかし、その道がいつも平坦とは限りません。時には険しい坂道が続き、迷いや不安に駆られることがあるでしょう。夢を追いかけなければ追いかけるほど、高い壁にぶつかり、思うようにいかない現実に、悩むこともあるかもしれません。あるいは、自分の力ではどうにもならないこと、自然災害、病気やけがといった困難に直面することもあるでしょう。そんなとき「あんなに頑張ったのに報われなかった」とか、「なぜ自分がこんな目に遭うのか」と、やる気をなくしたり、投げやりな気持ちになるかもしれません。しかし、失敗があるからこそ、学べることがあります。挫折があるからこそ、生まれる強さがあります。本当の悲しみを知るからこそ、優しくなれます。迷い続けたからこそ、見つかる場所があります。何があったとしても、その後の自分の生き方次第で、その出来事の価値は変わってきます。そして、そのときは分からなくても、後になって「あの経験があったからこそ、今の自分がある」と思える日がきっと来ます。だからこそ、歩みを止めず前へ進んでください。そしていつか、「自分がこの世に生まれてきたのは、このためだったんだ」と心から思える瞬間を迎えることを祈っています。

## 春休みの心得について

春休みは、年度末と年度始めの区切りのため、学生だけがお休みであり、大人はむしろ忙しい時期です。そんな中、お子さんは、学年が終わった開放感と、来るべき新生活への見えない不安が入り交じる中で過ごす16日間になります。教員の人事異動、家庭内では家族の異動、兄姉の進学、転居など、場合によっては大きな環境の変化があることも考えられます。子ども達には、1年間の学習の復習を行ったり、読書をしたりする時間はたっぷりありますので、自分のためになることに時間を使ってほしいと願います。早寝早起き、朝ご飯の生活習慣をキープさせ、健康で安全な春休みになりますよう、よろしくお願ひします。

### 今後の予定

3月26日（水）離任式

4月 7日（月）着任式・始業式・入学式



